

《担当者名》○教授/三浦 宏子hmiura@ 教授/長澤 敏行nagasawa@ 教授/永易 裕樹nagayasu@
 教授/塚越 博史hiro@ 教授/安彦 善裕yoshi-ab@ 教授/越野 寿koshino@
 准教授/松岡 紘史mazun@ 准教授/門 貴司kado@ 講師/仲西 康裕nakanisi@
 講師/泉川 昌宣s-izumi@ 講師/倉重 圭史kura@ 講師/川西 克弥kawanisi@
 医療相談・地域連携室/吉野夕香yuka@

【概要】

医療専門職の必須スキルであるヘルスコミュニケーションの概要と、歯科における医療面接の基礎を学ぶ。医療・公衆衛生分野での主要なコミュニケーションの機会としては「医療従事者・患者間のコミュニケーション」、「医療従事者間のコミュニケーション」、「医療提供者と地域社会間のコミュニケーション」等が挙げられる。また、現代におけるこれらのコミュニケーションの多くは、各種のメディアやSNS等を介して実施されることも多く、正しい情報を的確に共有するためのコミュニケーションスキルの醸成が求められている。本講では、ヘルスコミュニケーションの概要を理解した後に、歯科における医療面接のための基礎知識と技能の向上を図るため、講義に加えて演習を行う。

【学修目標】

ヘルスコミュニケーションの概要を理解する。
 リスクコミュニケーションの考え方を理解し、正しく医療情報を発信できる。
 多職種連携を図るためのコミュニケーションスキルを高め、具体的な対応策を説明できる。
 メディアを介したヘルスコミュニケーションの理論と具体的な対応策を説明できる。
 歯科における医療面接の基本を理解し説明できる。
 患者中心の医療を前提とした医療面接に求められる事項について説明できる。
 医療面接の実際を学生同志のロールプレイで実施できる。
 SOAPについて説明できる。
 診療録の記載内容や問診票の活用方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ヘルスコミュニケーション総論	ヘルスコミュニケーションが必要とされている背景とその意義を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	三浦 宏子
2	リスクコミュニケーション	リスクコミュニケーションの概念を理解し、歯科医療専門職によるリスクコミュニケーションのあり方を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	三浦 宏子
3	多職種連携のコミュニケーション	多職種連携によるコミュニケーションに関する具体的な取り組みを理解し、多職種連携に基づく歯科口腔保健活動の基礎を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	吉野 夕香
4	医療スタッフの接遇とコミュニケーション	患者満足度の向上に大きく寄与する医療スタッフの接遇について、医療コミュニケーション理論から理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	三浦 宏子
5	診査の方法	問診等の診査法を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	永易 裕樹
6	異文化としての患者理解	患者理解のための「態度」の重要性を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	塚越 博史
7	情報提供のためのコミュニケーション	文書によるコミュニケーションを理解する。 ヘルスリテラシーとコミュニケーションの関係について学ぶ。	長澤 敏行

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	
8	SOAPに基づく診療録の書き方	POMR (問題志向型診療記録)の概念を学ぶ。 SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	長澤 敏行
9	患者の心に配慮した医療面接	患者の心の動きに配慮した面接法を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	安彦 善裕
10	種々の診療場面での医療面接	診療における医療面接の重要性を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	越野 寿
11	保存領域の医療面接	保存修復での取り組み例を中心に、保存領域の医療面接の流れや留意すべき点について理解を深める。 SOAPに基づく診療録の書き方を学ぶ。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	泉川 昌宣
12	補綴領域の医療面接	クラウン・ブリッジ補綴での取り組み例を中心に、補綴領域の医療面接の流れや留意すべき点について理解を深める。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	仲西 康裕
13	小児の医療面接	小児の診療における医療コミュニケーションを理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	倉重 圭史
14 15	医療面接の実際	医療の現場を想定して医療面接の基本を学ぶ。 与えられた疾患を想定したシナリオを作成し、医療面接のシナリオや問診票の活用方法を学び、ロールプレイを行う。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	川西 克弥 門 貴司 松岡 紘史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各講義担当者から課せられるレポートもしくは確認テストで評価する。

医療面接の演習レポートは、ロールプレイ中に指摘（フィードバック）された点について改善されているかどうかでも評価するので、留意すること。

【教科書】

保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門

【参考書】

歯科医療面接アートとサイエンス 伊藤 孝訓 編 砂書房

「はじめての医療面接」 齋藤 清二 著 医学書院

【学修の準備】

本講義は3年で履修する他科目と密接な関連性を有する。

復習として、講義中に疑問だった点をまとめておく。

演習時の感染予防のためにフェイスシールドの携帯を求められることがあるので、忘れずに持参すること。

レポートは期限厳守で提出すること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および

歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を医療コミュニケーションの観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を医療コミュニケーションの観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を医療コミュニケーションの観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を医療コミュニケーションの観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を医療コミュニケーションの観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

三浦 宏子（歯科医師）、永易 裕樹（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、安彦 善裕（歯科医師）、
越野 寿（歯科医師）、仲西 康裕（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）、倉重 圭史（歯科医師）、
川西 克弥（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、松岡 紘史（公認心理師）、吉野 夕香（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療コミュニケーション学は、患者からの情報を引き出し、分析し、診断するための基本科目である。学理に則った教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなし、さらに、実際に学生が体験することで、さらなる教育成果の向上を目指す。